



Business Report

平成21年4月1日～平成21年9月30日

第145期【中間】



塩野義製薬株式会社

株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社の第145期第2四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)の事業概況をご報告申し上げますにあたり、この間に株主の皆さまから賜りましたご協力、ご支援に対しまして、厚く御礼申し上げます。

本年度は、2005年度からスタートしました第二次中期経営計画の最終年度であり、一方では当社のグローバル化に向けた本格的なスタートの年と考えております。

当社のグローバル化への取り組み状況につきましては、欧米で開発中の抗HIV薬について、第Ⅱ相臨床試験での良好な結果を発表することができ、肥満症治療薬velneperit(S-2367)を始め、海外での自社創製品の開発が順調に進展しております。また、10月には英国との国際産学連携活動協定を締結し、英国の研究組織との情報交換や人材交流を行い、共同研究を通して当社の継続的な成長を担う医薬品のシーズ探索を進めていく予定です。

さらに、昨年10月に買収しました米国Sciele Pharma, Inc. (サイエル社)におきましても、今年に入ってから既に3つの新製品を上市し、現在も2品目を申請中です。

グローバル化に向けた基盤という意味では国内での諸活動も非常に重要であると考えております。国内の研究開発活動では、大型製品として期待している「デュロキセチン」を2008年1月に抗うつ薬として申請し、2009年9月には糖尿病性神経因性疼痛の適応を追加申請しました。また、社会的な期待も大きい抗インフルエンザ薬の申請も、10月に実施いたしました。

国内の販売面におきましては、販売計画を確実に達成することが何よりも重要として取り組んでまいりました結果、主要な製品を中心に期初の売上目標を100%達成することが出来ました。順調に拡大している高コレステロール血症治療薬「クレストール」に加え、昨年発売しました「イルベタン」「ディフェリン」「ピレスパ」などの新製品を中心とした、成長余力の高い製品ヘリソースを集中することにより、今後もさらなる発展を目指してまいります。

当期の業績は、アストラゼネカ社に導出している「クレストール」のロイヤリティー収入の継続的な拡大やサイエル社の売上が加わることにより増収となりましたが、収益面では、同社の買収に伴うのれん償却費などに加え研究開発費が増加したことにより、販売費及び一般管理費が増加し減益となりました。

しかしながら、公表しておりました上期の業績予測に対しましては、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益ともすべて達成することができました。引き続き、売上高2,800億円、営業利益600億円という年間目標の達成に向けて、最大限の努力をまいります。

当期の中間配当金は、1株当たり18円を実施させていただきます（昨年度は、中間：14円、期末：14円、年間配当金：28円）。

配当を中心とした株主還元につきましては、今後も業績の拡大とともに安定的に向上させてまいります。

株主の皆さまには、当社の事業活動にご理解をいただき、今後とも一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役会長

塩野元三



代表取締役社長

手代木 功



シオノギの基本方針（1957年制定）

シオノギの目的

シオノギは、常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する。

そのために

益々よい薬を創り出さねばならない。
益々よい薬を造らねばならない。
益々よい薬を益々多くの人々に知らせ、使って貰わねばならない。
創り、造り、売ることを益々経済的にやりとげねばならない。

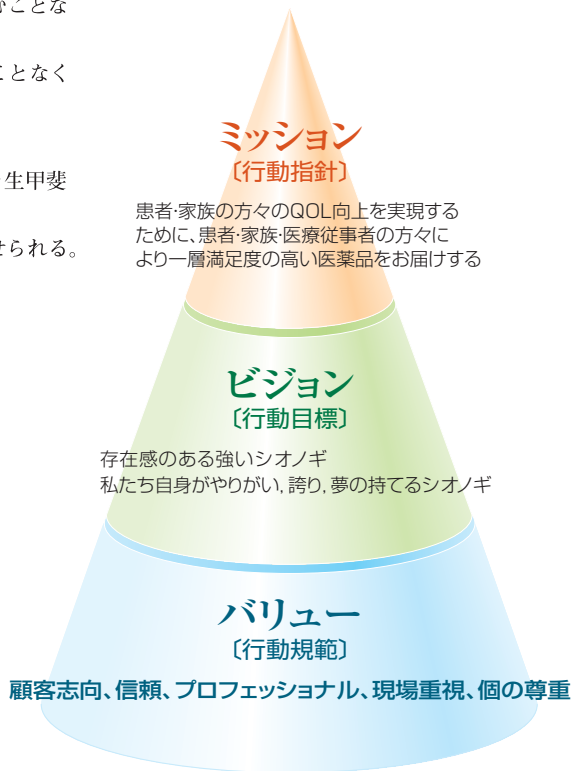
そのために

シオノギの人々のあらゆる技術が日々休むことなく向上せねばならない。
シオノギの人々が、人間として日々休むことなく向上しなければならない。

その結果

シオノギの人々は日々の仕事と生活に益々生甲斐を感じる。
シオノギの人々の生活の仕方が益々改善せられる。
シオノギの人々の生活が益々豊かになる。

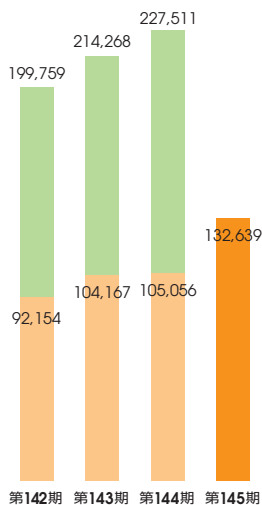
シオノギの行動方針



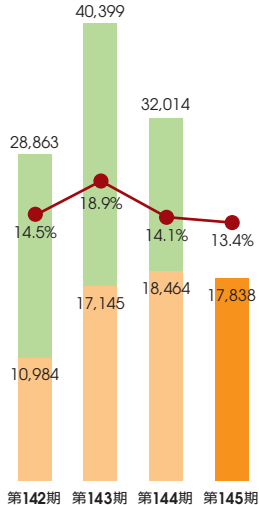


連結財務指標

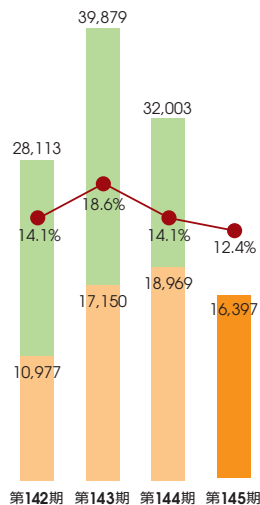
◆売上高



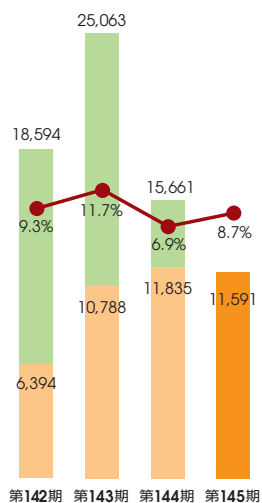
◆営業利益



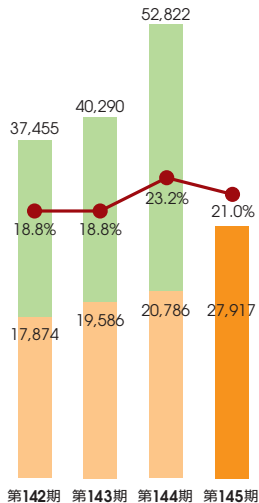
◆経常利益



◆当期純利益



◆研究開発費



単位：百万円

■ 年間

■ 第2四半期(累計)

● 売上高に対する比率

経営理念
連結財務指標

上期の概況

当社グループは、第二次中期経営計画の最終年度である2009年度におきまして、年間目標の確実な達成に向け、全力を尽くしております。

当第2四半期連結累計期間では、重要な折り返し地点として、立案した目標の必達に向けて全社一丸となって取り組んでまいりました。

◆経営成績(連結)	21年上期予測 (億円)	21年上期実績 (億円)	対上期達成率 (%)	対前年同期比 (%)
売 上 高	1,300	1,326	102.0	26.3
営 業 利 益	170	178	104.9	△ 3.4
経 常 利 益	160	163	102.5	△ 13.6
四半期純利益	100	115	115.9	△ 2.1

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、「クレストール」の販売が大きく増加し、昨年発売しました3製品が寄与することで、医療用医薬品全体の売上高は増加となりました。また、アストラゼネカ社による海外での「クレストール」の販売増によりロイヤリティー収入が増加したほか、ジョンソン・エンド・ジョンソン社向け輸出用の「ドリペネム」が増加しました。さらに、昨年連結子会社となりましたサイエル社の売上が加わることにより、全体の売上高は、1,326億3千9百万円で前年同期比26.3%の増となりました。

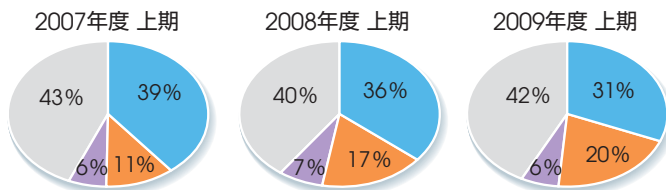
一方で、研究開発費やのれん償却費などにより販売費及び一般管理費が、大幅な増加となりました。このため、営業利益、経常利益、四半期純利益とも前年同期に比べ減となりましたが、期初に立案しました上期の業績予測に対しましては、売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益ともすべて達成することができました。

引き続き、売上高2,800億円、営業利益600億円、経常利益580億円、当期純利益350億円という通期の目標の達成に向け取り組んでまいります。

今後のグローバル化を推進するためには、収益基盤となる国内市場において販売を安定的に拡大していくことは、非常に重要だと考えています。

◆領域別売上高の推移 (医療用医薬品)

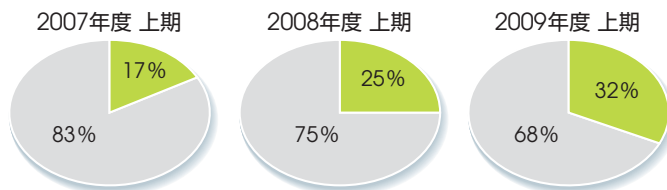
- 感染症
- MS(循環器)
- 疼痛
- その他



国内営業の強化に向けては、まず、バランスのよい販売構成を目指し、急性期疾患領域から慢性期疾患領域へのシフトを進めております。循環器領域では、昨年7月に発売しました高血圧症治療薬「イルベタン」が今年7月に長期投与が解禁となり、「クレストール」の順調な拡大と共に、販売構成における循環器領域の比率は順調に増加しております。

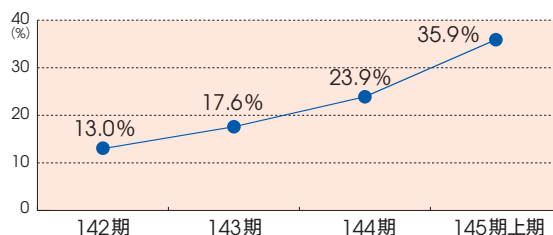
◆新製品の割合 (医療用医薬品)

- 第二次中計期間中に発売された新製品
- その他



また、抗生物質を中心とする既存品が、厳しい市場環境の中減少傾向にあるため、第二次中期経営計画の期間中に上市した新製品の拡大に注力してきました結果、国内医療用医薬品の売上に占める新製品の比率は年々拡大してきており、本年度上期では新製品の伸びが既存品の減少を上回るレベルになってまいりました。今後も厳しい競合状況の中、適切な製品情報を提供することで、新製品の普及・拡大を目指します。

◆売上高に占める 海外売上高の割合



「クレストール」のロイヤリティー収入の増加に加え、輸出用の「ドリベネム」も順調に拡大しています。また、サイエル社の売上が通期で加わったことにより、売上高に占める海外売上高の割合は大幅に拡大しています。

研究開発の状況

2008年1月に抗うつ薬として申請中のデュロキセチンは、2009年9月に糖尿病性神経因性疼痛の適応追加の申請を実施しました。さらに、10月には抗インフルエンザ薬（一般名：ペラミビル）の製造販売承認申請を行いました。今回のペラミビルの申請は成人への適応ですが、小児の適応につきましても臨床試験を開始しております。

また、国外では、肥満症治療薬、抗HIV薬、アトピー性皮膚炎治療薬などの開発を進めており、順調に進捗しております。

こうした活動の結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発費は279億1千7百万円、売上高に対する比率は21.0%となりました。

◆ 新薬開発状況（平成21年11月現在）

		Ph I	Ph II		Ph III	申請
		少人数の健康な成人（時に軽症の患者さん）を対象に主に安全性を確認します。	Ph IIa（前期） 少数の患者さんを対象に、有効性と安全性について検討を行います。	Ph IIb（後期） さらに、治療薬の適応範囲を明らかにするとともに、至適投与量を調べます。	多数の患者さんに対し有効性と安全性を評価します。治療薬と、プラセボ（偽薬）や既存薬を使い客観的な評価を行います。	厚生労働省に承認申請を行います。日本における承認審査は医薬品医療機器総合機構が行い、その審査結果に基づいて厚生労働大臣により承認されます。
重点領域	感染症		S-265744/S-247303 (HIV)	S-013420 (細菌感染) S-349572 (HIV)	フィニバックス® (小児感染) フィニバックス® (用法・用量追加) S-021812 (ペラミビル) (インフルエンザ：小児)	ドリベナム (US RTI) S-021812 (ペラミビル) (インフルエンザ：成人)
	疼痛	S-297995 (オピオイド副作用緩和薬)			S-811717 (オキシコドン注)	デュロキセチン (DNP)
	MS		S-2367 (国内：肥満)	S-2367 (肥満) S-3013 (ACS)		
フロンティア領域	アレルギー	S-444823 (アトピー性皮膚炎)	S-555739 (アレルギー性鼻炎)			
	その他	S-888711 (血小板減少症) S-222611 (悪性腫瘍) S-288310 (がんワクチン) (膀胱がん)	S-0139 (脳血管障害) S-0373 (脊髄小脳変性症)	NS75B (前立腺肥大)		デュロキセチン (うつ) RTI：呼吸器感染症 ACS：急性冠動脈症候群 DNP：糖尿病性神経因性疼痛

●：自社創製グローバル開発品 □：自社品 □：共同開発品 □：導出品 □：導入品

◆サイエル社のパイプライン (平成21年11月現在)

一般名	適応	Ph I	Ph II	Ph III	申請	上市
PrandiMet®	2型糖尿病	(レバグリニド / 塩酸メトフォルミン)				2009年1月発売
Prenate DHA®	妊婦用ビタミン	(ビタミン、ミネラル、DHA、メタフォルイン)				2009年4月発売
Ulesfia™	頭じらみ	(ベンジルアルコール)				2009年7月発売
Glycopyrrolate	流涎症	(グリコピロレート)			2009年9月申請	
Clonixel	ADHD	(塩酸クロニジン)			2009年10月申請	
Jenloga XR	高血圧	(塩酸クロニジン)		Ph III 終了		
Epinephrine	アナフィラキシー	(自己注射用エピネフリン)				
PSD502	早漏	(リドカイン / プリロカイン)		Ph III 終了		
PravaFen	脂質異常症	(プラバスタチン / フェノフィブラート)				
ADX415	高血圧	(選択的α2受容体アゴニスト)				

○ 循環 ○ 糖尿病 ○ 小児 ○ 婦人科

新製品

2009年 5月 発売	フルイトラン®錠1mg チアジド系降圧利尿剤	
2009年 8月 発売	セデス®・ハイ 40錠 解熱鎮痛薬	
2009年 9月 発売	新セデス®錠 60錠 解熱鎮痛薬	
2009年 9月 発売	ポボン®Bフレッシュ ビタミンB ₁ 主薬製剤	
2009年 9月 発売	オキノーム®散0.5% 2g (10mg/包) がん疼痛治療用散剤	
2009年10月 発売	レスフィーナ®細粒「分包」 生薬製剤	

四半期連結損益計算書

	当第2四半期 連結累計期間 (平成21年4月1日～ 平成21年9月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (平成20年4月1日～ 平成20年9月30日)
科 目	金 額 (百万円)	金 額 (百万円)
売上高	132,639	105,056
売上原価	36,861	32,979
売上総利益	95,778	72,077
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	77,939 (27,917)	53,613 (20,786)
営業利益	17,838	18,464
営業外収益	1,145	1,664
営業外費用	2,586	1,158
経常利益	16,397	18,969
特別利益	—	212
特別損失	47	272
税金等調整前四半期純利益	16,350	18,909
法人税、住民税及び事業税	6,499	6,026
法人税等調整額	△ 1,747	1,027
少数株主利益	7	19
四半期純利益	11,591	11,835

売上高は、国内市場における「クレストール」や新製品の増加、「クレストール」のロイヤリティー収入および輸出の拡大、さらにはサイエル社の売上が加わることで、前年同期比26.3%の増となりました。

利益面では、ロイヤリティー収入の増加やサイエル社の利益が加わることで原価率が改善し、売上総利益は32.9%の増となりましたが、研究開発費の増加やサイエル社の販管費やのれん償却費などにより、販売費及び一般管理費が45.4%と大幅増となったため、当第2四半期連結累計期間の営業利益および経常利益、四半期純利益とも前年同期に比べ減少となりました。

四半期連結貸借対照表

	当第2四半期 連結会計期間末 (平成21年9月30日現在)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日現在)
科 目	金 額 (百万円)	金 額 (百万円)
【資産の部】		
流動資産	224,170	202,724
固定資産	300,260	299,128
有形固定資産	70,289	71,811
無形固定資産	124,900	120,388
投資その他の資産	105,071	106,928
資産合計	524,431	501,852
【負債の部】		
流動負債	60,394	76,804
固定負債	137,265	114,954
負債合計	197,659	191,759
【純資産の部】		
株主資本	333,442	326,616
資本金	21,279	21,279
資本剰余金	20,227	20,227
利益剰余金	311,663	304,761
自己株式	△ 19,728	△ 19,652
評価・換算差額等	△ 7,132	△ 16,980
其他有価証券評価差額金	10,227	8,207
為替換算調整勘定	△ 17,360	△ 25,188
少数株主持分	461	458
純資産合計	326,771	310,093
負債純資産合計	524,431	501,852

当第2四半期連結会計期間末の資産合計の増加は、主として社債の発行による手元資金(有価証券)の増加により、流動資産が増加したことによるものです。

負債合計は、流動負債が短期借入金返済などにより前連結会計年度末より減少する一方で、固定負債が社債の発行などにより増加し、前連結会計年度末より増加しました。

純資産合計は、四半期純利益による増加に加え、評価・換算差額等が増加したことにより、前連結会計年度末より増加しました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	当第2四半期 連結累計期間 (平成21年4月1日～ 平成21年9月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (平成20年4月1日～ 平成20年9月30日)
科 目	金 額 (百万円)	金 額 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	20,630	18,342
税金等調整前四半期純利益	16,350	18,909
減価償却費	8,656	5,549
のれん償却額	1,904	—
資産・負債増減等	2,626	1,387
法人税等の支払額	△ 8,907	△ 7,504
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,288	8,710
定期預金の払戻・預入	△ 309	△ 175
有形固定資産の取得・売却	△ 4,254	△ 6,108
投資有価証券の取得・売却	3,165	19,184
貸付金の回収による収入	97	3
その他	△ 3,987	△ 4,193
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,051	△ 4,630
配当金の支払額	△ 4,688	△ 4,020
借入・返済	△ 17,181	△ 373
社債の発行による収入	30,000	—
その他	△ 78	△ 236
現金及び現金同等物に係る換算差額	383	△ 143
現金及び現金同等物の増減額	23,776	22,280
現金及び現金同等物の期首残高	51,536	67,609
現金及び現金同等物の四半期末残高	75,312	89,889

当第2四半期連結累計期間の「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、前年同期比22億8千7百万円の増の206億3千万円の収入となりました。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、有形固定資産の取得などにより、前年同期比139億9千9百万円の減の52億8千8百万円の支出となりました。

また、「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、短期借入金の返済や社債の発行による収入を中心に、前年同期比126億8千1百万円の増の80億5千1百万円の収入となりました。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の「現金及び現金同等物の四半期末残高」は、753億1千2百万円となりました。

通期の見通し

主力の医療用医薬品市場は、医療費の抑制や特許切れ問題など今後も厳しい販売環境が続くものと予想されますが、当社は、「 Crestal 」および「イルベタン」をはじめとする新製品を中心とした販売拡大を引き続き見込んでおります。

また、連結子会社となったサイエル社の売上および利益が通期で寄与すること、ロイヤリティー収入の増加が引き続き期待されることなどにより、全体としましては大幅な増益を見込んでおります。

◆通期の見通し

連結			
売上高	2,800億円	(前期比	23.1%増)
営業利益	600億円	(前期比	87.4%増)
経常利益	580億円	(前期比	81.2%増)
当期純利益	350億円	(前期比	123.5%増)

利益配分に関する基本方針

当社は、中長期的な視点での企業価値の増大を図るため、事業投資を積極的に行うとともに、配当につきましては、各期の業績に応じた配分を基本におきながら、これを安定的に向上させることを目指しております。

◆配当金

	一株当たり配当金		
	中間	期末	年間
平成21年度	18円	18円(予定)	36円(予定)
平成20年度	14円	14円	28円

シオノギはクオリティ・オブ・ライフ (QOL: Quality of Life) の向上に取り組んでいます

シオノギは、感染症、疼痛、メタボリックシンドロームをはじめ、さまざまな領域で皆さまの健康に奉仕できるよう、努力を続けています。同時にクオリティ・オブ・ライフの向上にも積極的に取り組んでいます。

■がんの痛み治療の普及活動を通じてQOLの向上に取り組んでいます

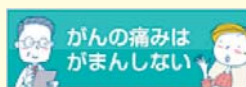
当社では、2007年4月にがん疼痛克服推進部を創設し、まだ我が国で十分に実施されているとはいえない「がんの痛み治療」への積極的な取り組みを通じた企業の社会貢献活動を行っています。私たちの願いは「がんの痛みに苦しんでおられる患者さんが痛みから解放されること」です。

具体的な取り組みとしては、自らもがんを克服された藤村俊二さんをイメージキャラクターに起用した広告(新聞、テレビCM)や広報(ウェブサイト、セミナーなど)活動、そして、がんの痛み治療の普及を目指す企業団体「がん性疼痛緩和推進コンソーシアム」への参画、厚生労働省が推進する緩和ケアの普及啓発事業「オレンジバルーン活動」の応援などを通じて、「がんの痛みはがまんしない」というメッセージを様々な角度から発信しています。

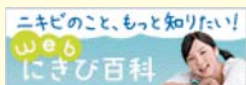
応援しています。

かんわ
緩和
ケア

Orange Balloon
Project



<http://www.shionogi.co.jp/itami/index.html>



<http://www.shionogi.co.jp/nikibi/index.html>

■皮膚科でのニキビ治療を支援しています

さらに今年度は、ニキビ治療に対する啓発の取り組みを開始しました。

尋常性ざ瘡、いわゆる「ニキビ」は、患者さまにとりましては、肌そのものだけではなく心理的な影響も大きく、QOLを著しく損なう可能性があります。また、ニキビの治療は患者さまご自身の判断に委ねられており、適切な情報提供・治療が行われているとはいえない状況です。

こうした現状を踏まえてシオノギでは、ニキビのトラブルを抱えておられる患者さまに皮膚科を受診し専門的な治療を受け、患者さまのQOLがより一層向上するよう、皮膚科でのニキビ治療の啓発活動に取り組んでいます。

まずはテレビCMを放映すると共に、シオノギホームページ内にウェブサイト「webにきび百科」を開設し、ニキビ治療についての情報提供を行っています。

英国と国際産学連携活動協定を締結しました

今年10月、英国との間で、研究開発の国際産学連携ネットワークの形成について協定を締結することに合意しました。

本契約の目的は、英国の研究組織が有するシオノギのニーズに合った創業シーズを探し出し共同研究を実施すること、および英国の研究組織との人材交流を図ること、です。

具体的な取り組みのひとつとして、研究開発の情報交換や人材交流をオックスフォード大学ほか計3大学と既に締結し、スコットランド国際開発庁及び2大学との間で覚書を締結することに合意しました。今後、これらの大学とシオノギ創業イノベーションコンペ(FINDS)の開催をはじめ、共同研究の開始、またその他の英国内の大学や研究機関とも順次覚書を締結しネットワークを拡大していく予定です。

シオノギは今後もグローバル化をさらに加速する取り組みを推し進めてまいります。



「ポポン®Bフレッシュ」発売 ～はじめませんか？ 疲れケア～

9月11日より、「ポポン®Bフレッシュ」を発売いたしました。

ポポン®Bフレッシュは、シオノギが開発した吸収のよいビタミンB₁誘導体ジセチアミン塩酸塩水和物を主薬とし、細胞のエネルギー代謝を改善してからだの疲れをやわらげるビタミン剤です。

「だるい、お重い」といった日頃から感じている疲れの症状になかなか手当てができていない方に、ビタミンB₁誘導体ジセチアミンがすぐれた効果を発揮します。疲れケアをはじめていただきやすい手頃なビタミンとしてお勧めいたします。また、あわせてテレビCMも展開中です。

シオノギは、「ポポン®Bフレッシュ」を既存の「ポポン®S」、「ポポン®Cホワイト」に加えることにより“ポポンシリーズ”のブランド力強化を図るとともに、皆さまの日頃の疲れをやわらげ、毎日を元気にお過ごしいただくよう今後も取り組んでまいります。





株式の概況

(平成21年9月30日現在)

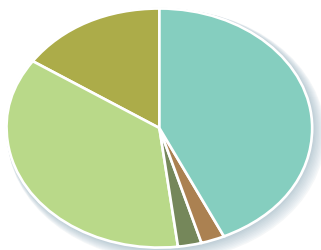
◆株式の状況

- 発行可能株式総数 1,000,000,000株
- 発行済株式の総数 351,136,165株
- 株主数 20,831名
- 株主1人当たり平均持株数 16,856株
- 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
1 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	22,179	6.32
2 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	20,986	5.98
3 住友生命保険相互会社	18,604	5.30
4 塩野義製薬株式会社	16,228	4.62
5 THE CHASE MANHATTAN BANK, N. A. LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT	15,899	4.53
6 日本生命保険相互会社	13,138	3.74
7 JP MORGAN CHASE BANK 380055	10,194	2.90
8 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	9,485	2.70
9 日本興亜損害保険株式会社	7,551	2.15
10 株式会社三井住友銀行	6,564	1.87

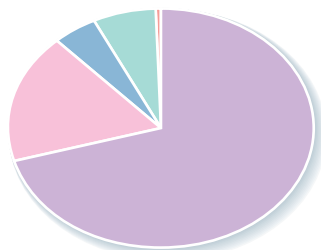
◆株式の分布状況

< 所有者別株式分布 >



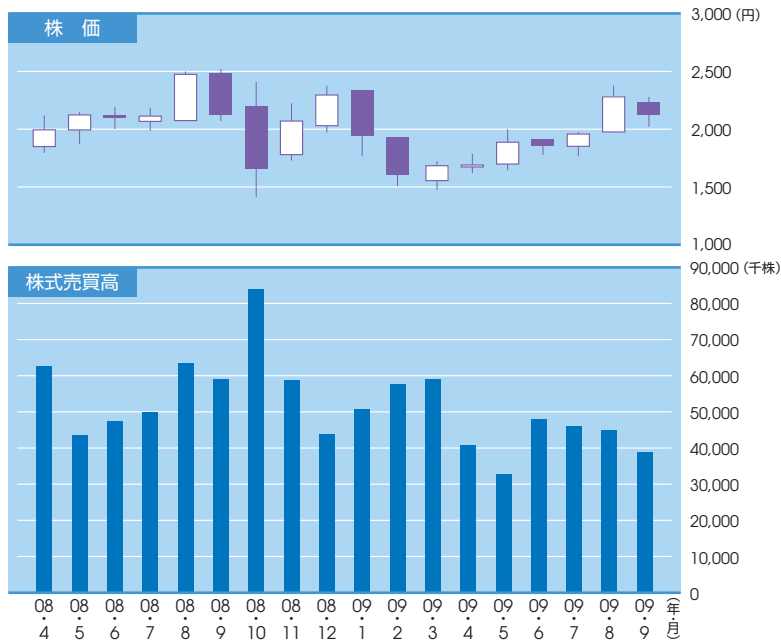
金融機関	43.14%
証券会社	2.49%
その他の法人	2.48%
外国法人等	36.37%
個人その他	15.52%

< 所有数別株式分布 >



1,000千株以上	70.67%
100千株以上	17.41%
10千株以上	4.82%
1千株以上	6.72%
1千株未満	0.38%

◆株価および株式売買高の推移





概要

(平成21年9月30日現在)

会社の概要

商 号	塩野義製薬株式会社 (SHIONOGI & CO., LTD.)
創 業	1878年(明治11年)3月17日
会 社 設 立	1919年(大正8年)6月5日
決 算 期	3月31日
事 業 内 容	医薬品、診断薬などの製造・販売
資 本 金	212億79百万円
従業員数(連結)	6,108名



<http://www.shionogi.co.jp/>

役員

取締役

代表取締役 会 長	塩 野 元 三
代表取締役 社 長	手 代 木 功
取 締 役	戸 梶 幸 夫
取 締 役	三 野 泰 宏
社外取締役	野 村 明 雄
社外取締役	茂 木 鉄 平

監査役

常勤監査役	大 谷 光 昭
常勤監査役	小 松 聰 司
社外監査役	永 田 武 全
社外監査役	横 山 進 一

執行役員

専務執行役員	戸 梶 幸 夫
専務執行役員	三 野 泰 宏
常務執行役員	福 田 卓 雄
常務執行役員	久 米 龍 一
執 行 役 員	近 藤 裕 郷
執 行 役 員	澤 田 拓 子
執 行 役 員	真 下 重 信
執 行 役 員	五 島 正 光
執 行 役 員	加 茂 谷 佳 明



事業所と主な子会社 (平成21年9月30日現在)

本 社

〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目1番8号
Tel 06-6202-2161

支 店

東 京 支 店

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2丁目17番5号
シオノギ渋谷ビル
Tel 03-3406-8111

名 古 屋 支 店

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2丁目9番地
スカイオアシス栄
Tel 052-957-8271

福 岡 支 店

〒810-0072 福岡市中央区長浜1丁目1番35号
新KBCビル
Tel 092-737-7750

札 幌 支 店

〒064-0807 札幌市中央区南七条西1丁目13番地
第3弘安ビル
Tel 011-530-0360

研 究 所

中 央 研 究 所

〒553-0002 大阪市福島区鶯州5丁目12番4号
Tel 06-6458-5861

新 薬 研 究 所

〒561-0825 豊中市二葉町3丁目1番1号
Tel 06-6331-8081

医 学 研 究 所

〒566-0022 摂津市三島2丁目5番1号
Tel 06-6382-2612

油日ラボラトリーズ

〒520-3423 甲賀市甲賀町五反田1405番地
Tel 0748-88-3281

工 場

摂 津 工 場

〒566-0022 摂津市三島2丁目5番1号
Tel 06-6381-7341

金 ヶ 崎 工 場

〒029-4503 岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根森山7番地
Tel 0197-44-5121

事 業 所

杭 瀬 事 業 所

〒660-0813 尼崎市杭瀬寺島2丁目1番3号
Tel 06-6401-1221

子 会 社

武州製薬株式会社

〒350-0801 川越市大字竹野1番地
Tel 049-233-4651

日亜薬品工業株式会社

〒771-0132 徳島市川内町平石夷野224番地20
Tel 088-665-2312

シオノギ分析センター株式会社

〒660-0813 尼崎市杭瀬寺島2丁目1番3号
Tel 06-6381-7271

海 外 (事業所・関係会社)

Shionogi & Co., Ltd.

Taipei Office

4F, No. 2, Sec. 2, Nanking East Road
Taipei 10457, Taiwan
Tel +886-2-2551-6336

Shionogi & Co., Ltd.

Shanghai Office

Far East International Plaza 3F, 306A
No. 319 Xian Xia Road
Shanghai 200051
People's Republic of China
Tel +86-21-6235-1311

Taiwan Shionogi & Co., Ltd.

4F, No. 2, Sec. 2, Nanking East Road
Taipei 10457, Taiwan
Tel +886-2-2551-6336

Shionogi USA, Inc.

100 Campus Drive, Florham Park
NJ 07932, U.S.A.
Tel +1-973-966-6900

Sciele Pharma, Inc.

5 Concourse Parkway Suite1800
Atlanta, GA 30328, U.S.A.
Tel +1-800-461-3696

株主メモ

- ◇ 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- ◇ 定時株主総会 6月
- ◇ 基準日 定時株主総会 3月31日
 期末配当金 3月31日
 中間配当金 9月30日
 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
- ◇ 単元株式数 100株 ※平成21年10月1日付けで1,000株から100株に変更しています。
- ◇ 公告掲載方法 電子公告 当社インターネットホームページ(<http://www.shionogi.co.jp/>)に掲載しています。
- ◇ 上場証券取引所 東京・大阪
- ◇ 証券コード 4507
- ◇ 株主名簿管理人 および 特別口座の口座管理機関 住友信託銀行株式会社 (大阪市中央区北浜四丁目5番33号)
- ◇ 株主名簿管理人 事務取扱場所 住友信託銀行株式会社 証券代行部 (大阪市中央区北浜四丁目5番33号)
 (郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
 住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (電話照会先) ☎0120-176-417
 (インターネットホームページ) <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

《株券電子化後のお手続き等について》

- ◆ 平成21年1月5日(月)に上場会社の株券電子化が実施されたことに伴い、住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等のお届出およびご照会先は、以下のとおりとなっております。

「証券保管振替制度」をご利用の株主様	株主様が口座を開設されている証券会社等
「証券保管振替制度」をご利用でない株主様	当社が「特別口座」を開設した住友信託銀行 (ご照会は上記の電話照会先をお願いいたします。)

《単元未満株式の買取手数料の無料化について》

ご負担いただいております手数料を平成21年1月5日(月)以降のご請求から無料(証券会社等の手数料を除く。)といたしておりますので、単元未満株式の買取制度のご利用をご検討くださいますようお願い申し上げます。

お手続きの詳細は、上記「株主名簿管理人」または「株主様が口座を開設されている証券会社」までお問合せください。

